

DX推進方針

B&DX株式会社



- 第4次産業革命以降、「VUCA（不安定、不確実、複雑、曖昧）」と言われる時代へ突入しました。
- デジタル技術の進歩とIoTの発展により、企業活動の大きな変化が求められるようになりました。

産業革命の変遷

イノベーション

21世紀前半～

第四次産業革命

- デジタル技術の進歩とIoTの発展
- ✓ スマートフォン、AI技術

物理世界と
デジタルの融合

20世紀後半

第三次産業革命

- 電子工学や情報技術による自動化
- ✓ コンピューター、インターネット

情報で世界がつながる

19世紀後半

第二次産業革命

- 電気・エネルギーの発明により大量生産
- ✓ 電力/石油による内燃機関、重化学工業の発達

モノが全ての人に
行きわたる

18世紀後半

第一次産業革命

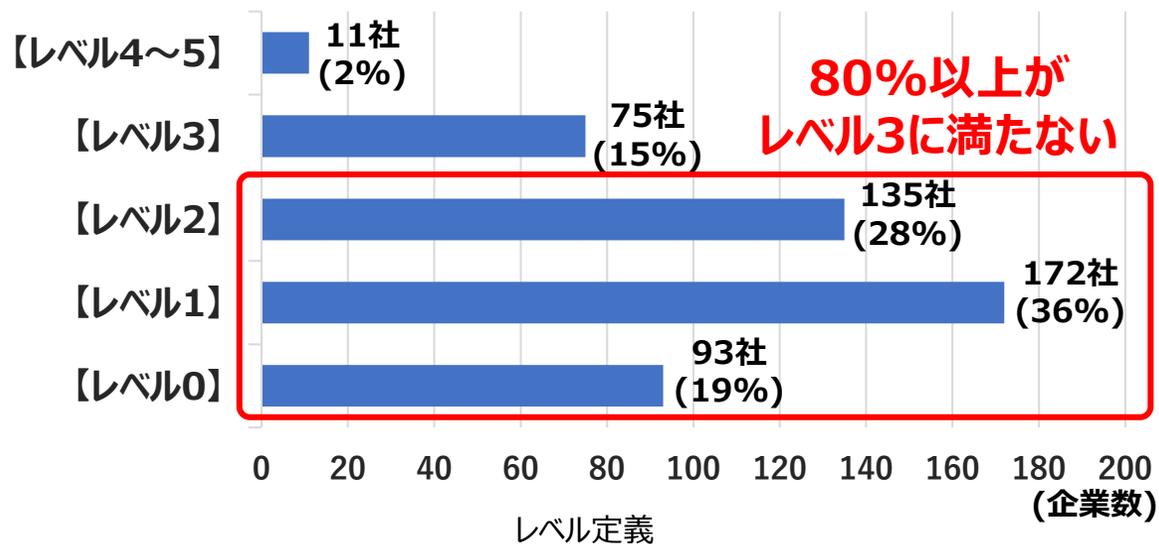
- 蒸気や水力を利用し生産・運搬を機械化
- ✓ 蒸気機関、軽工業の発達、交通革命

生産と消費の分離



日本企業の80%以上が 未着手・部分的な着手に留まる

DXへの取り組み状況(2022/08)



レベル	レベル定義
【レベル4~5】	全社戦略に基づく持続的な実施・グローバル競争で勝ち抜くレベル
【レベル3】	全社戦略に基づく部門横断的推進
【レベル2】	全社戦略に基づく 一部門 での推進
【レベル1】	部門単位での 試行 ・実施
【レベル0】	未着手

独立行政法人情報処理推進機構 (IPA)
『DX推進指標 自己診断結果 分析レポート (2021年版)』を基にB&DXにて加工
(<https://www.ipa.go.jp/files/000100312.pdf>)

日本企業のDX対応力は 63ヶ国中の最低レベル

デジタル技術の利活用評価(対象：63ヶ国・地域) (2022/09)

部門順位	詳細(抜粋)
【知識部門】 デジタル技術習得・ インフラ整備状況等	28位 <ul style="list-style-type: none"> デジタルスキル ワースト2位 教師1人あたりの生徒数 1位 教育/研究ロボット数 4位
【技術部門】 デジタル技術の進展	30位 <ul style="list-style-type: none"> ワイヤレス通信浸透率 2位
【将来への準備部門】 デジタル変革に対する 社会の受容性	28位 <ul style="list-style-type: none"> 企業の柔軟性 ワースト1位 ビッグデータの活用 ワースト1位 企業の機会/脅威への対応 ワースト1位 著作権保護 2位 ロボット普及率 2位

総合順位: **29位**

(2019年:23位、2020年:27位、2021年:28位)

IMD World Competitiveness Center
「IMD世界デジタル競争力ランキング2022」を基にB&DXにて加工
(<https://www.imd.org/centers/world-competitiveness-center/rankings/world-digital-competitiveness/>)



日本企業がDXに成功していない理由

業務改革が必要

ツールの導入にとどまっており、
制度・ルールや人・組織（構造、役割見直し）の変革が出来ていない

トップのコミットが必要

部内改革の集合体になっており、全社横断の変革に着手できていない

意識改革が必要

経営層、中間層、現場層全員のチェンジマネジメントが出来ていない

DX実現のための課題解決の支援を日本企業が求めている



B&DXのパーパス

Journey to Transformation

クライアント企業の真の変革を実現し、変化する社会の中で求められる、
たゆまぬ変革の旅を先導する存在として歩むという決意を込めています。

私たちのミッション

日本企業のトランスフォーメーション（企業変革・DX）を実現する

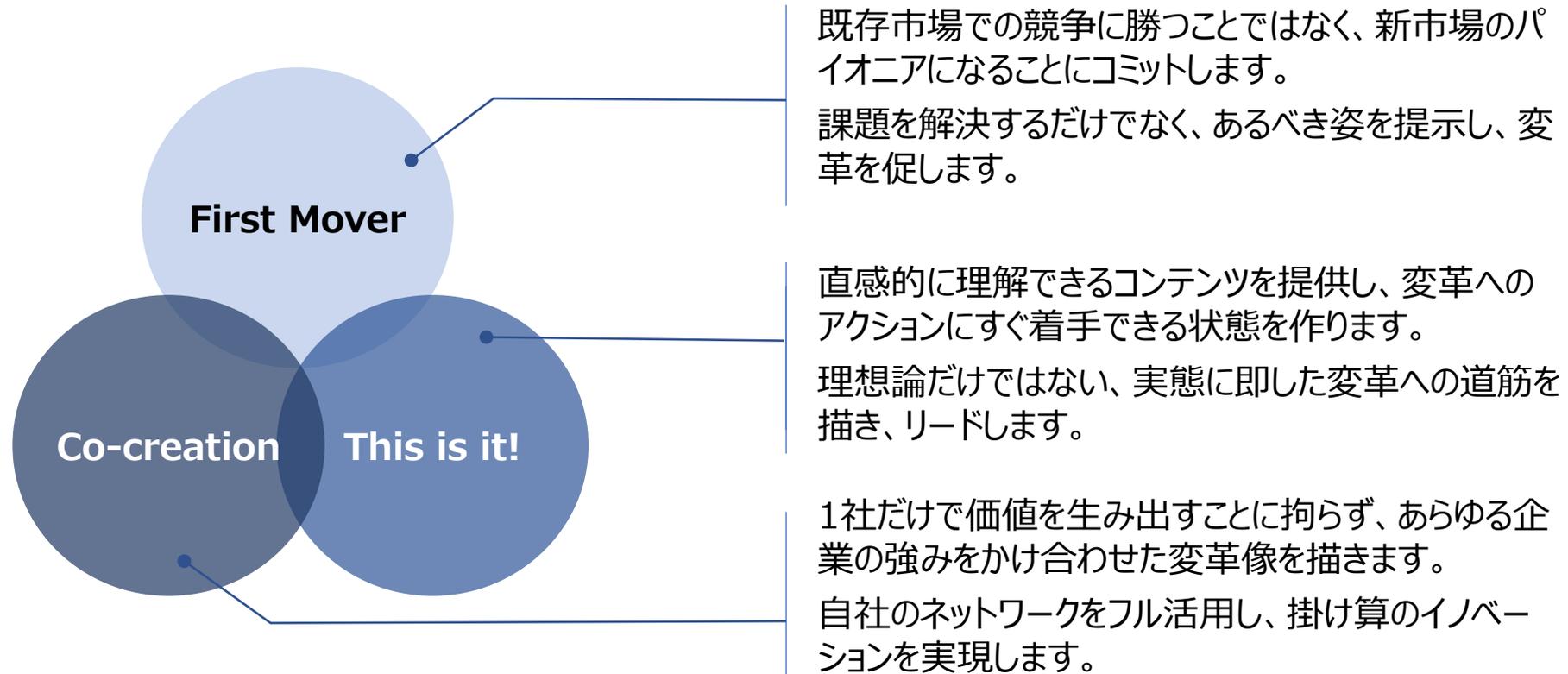
経営者と直接対峙して、高い視座から議論し、巻き込むことで、あるべき将来像と道標を描き、
ビジネスの変革とDXを両輪として企業変革を実現する

既製のコンサルティングの枠に囚われず、市場とビジネスを創造し続ける

ビジョン実現のための方向性

- 急速に変化する市場を捉え、経営資源を最大限に活かして日本企業の経営課題に対応しつづけるために、**First Mover/Co-creation/This is it!**という3つの戦略に基づいて経営を進めます。

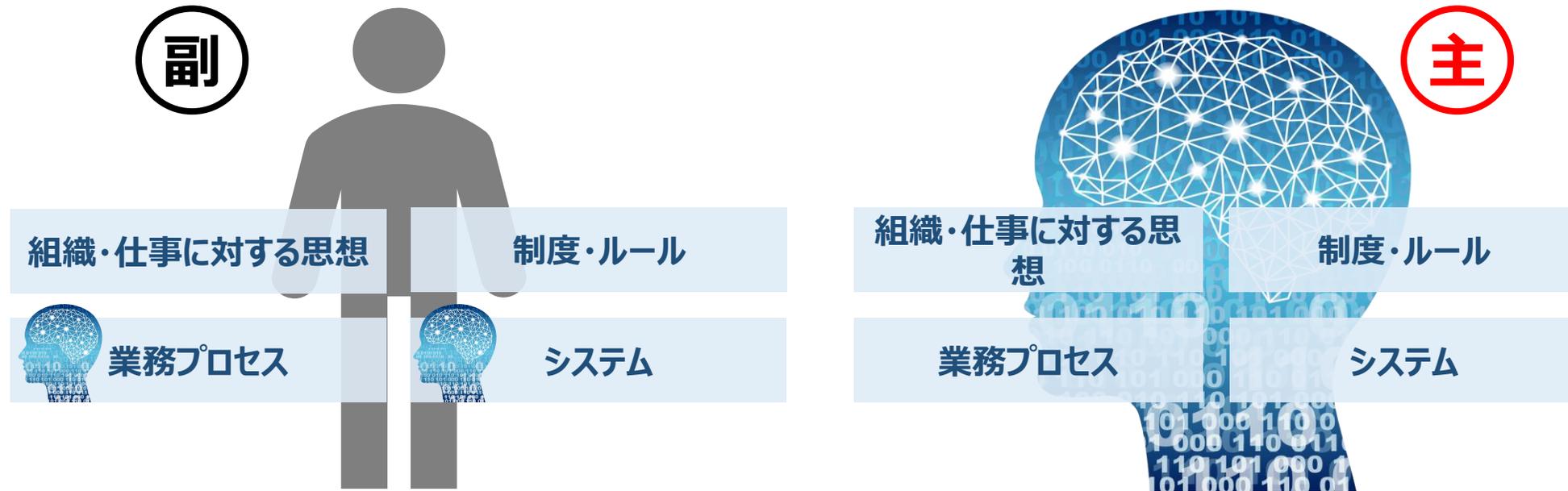
B & DXの3つの戦略





- B&DXは、ビジネスに関するすべての情報が人に紐づき人を中心とした業務の姿（Human-Oriented）から、デジタルが制度・ルールを遵守しつつ、人と対話しながら業務を遂行する姿（Digital-Oriented）への変革を目指します。

『Human-Oriented から Digital-Oriented』 への変革

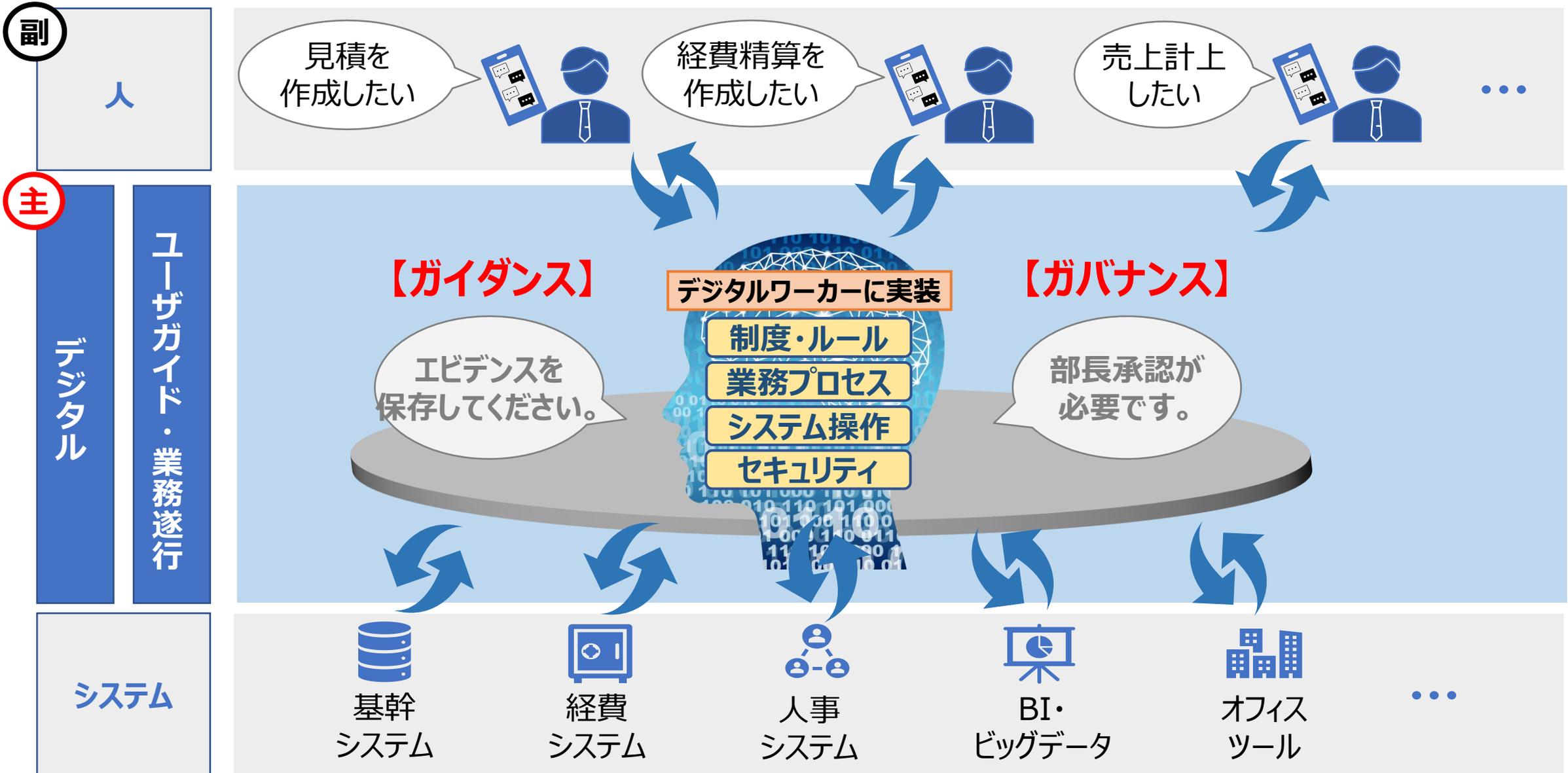


ビジネスを支えるあらゆる情報は
人に紐づき、その情報をもとに
人を中心とした構造になっている

Human-Oriented

あらゆる情報はデジタルに紐づき
人間から意思決定を引き出す
デジタルが制度・ルールを順守しつつ、
人と対話しながら業務を遂行する

Digital-Oriented





経営ビジョンを実現するための具体的な取組施策

- デジタル技術を活用した新規ビジネス創出のため全社レベルでの巻き込み施策を展開します。
- また蓄積したデジタル技術知見をもとに、社内業務プロセスDXに取り組みます。

施策

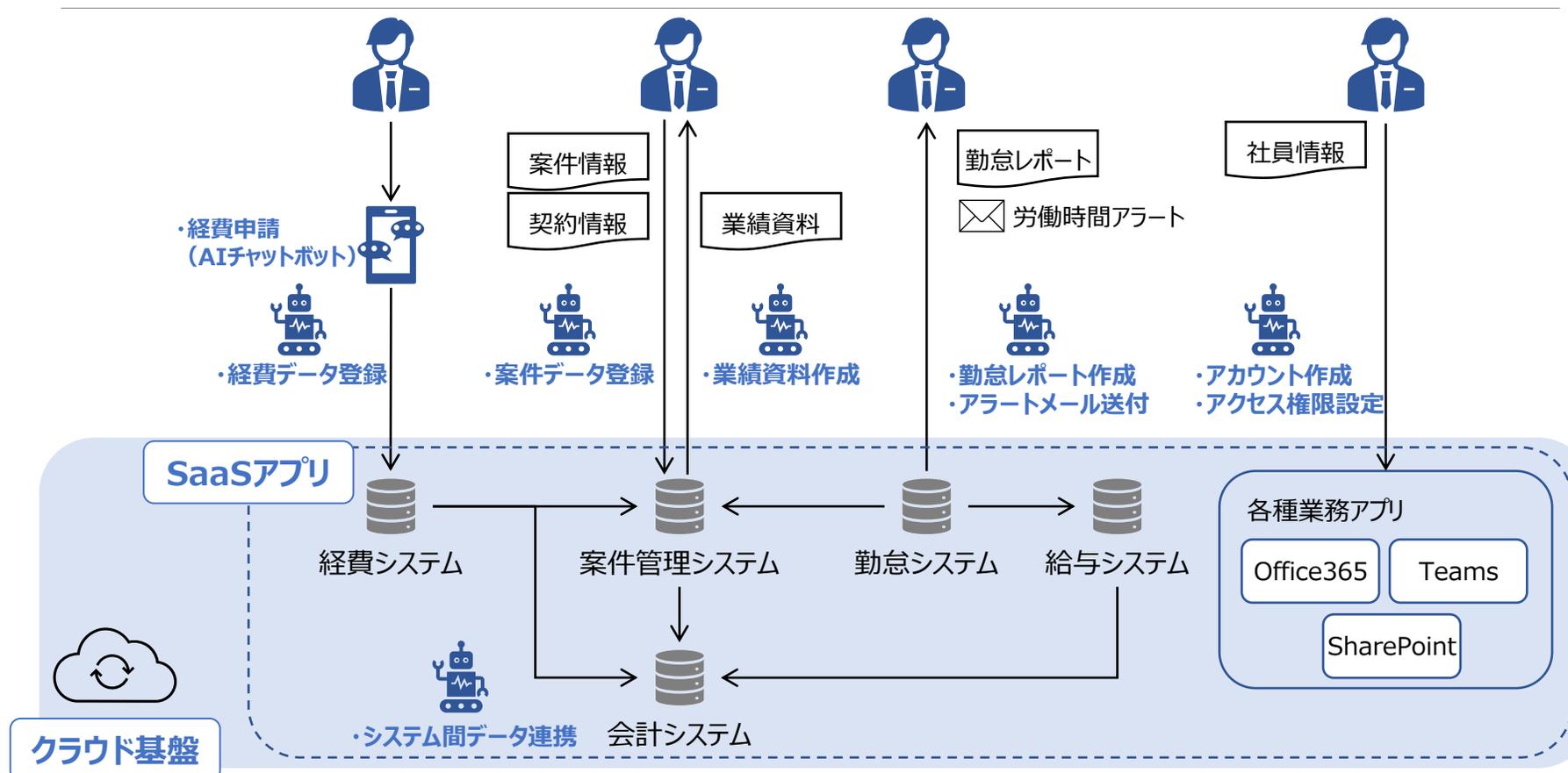
内容

1	デジタル技術知見を社内に蓄積	<ul style="list-style-type: none">・ トレンドを踏まえ、新しいデジタル技術に関する検討チームを設置し週次で討議・ 検討の中で最新ナレッジを収集・蓄積し、社内に展開
2	全管理職を巻き込んだ 討議の場を設定	<ul style="list-style-type: none">・ 最新デジタル技術・ソリューションを活用した新規ビジネス検討ディスカッションを全管理職参加で週次開催
3	全社レベルでの意識改革	<ul style="list-style-type: none">・ 上記1,2の検討成果・ナレッジを全社員で共有し、最新デジタル技術およびそれらを活用したビジネスに関する意識を醸成
4	評価制度の整備	<ul style="list-style-type: none">・ 新規ビジネスの創出成果を社員の評価と紐づけ、ビジネス創出に対する社員のモチベーションを醸成
5	最新デジタル技術を用いた 業務プロセスDX	<ul style="list-style-type: none">・ 最新デジタル技術を活用し、業務プロセスを徹底的に自動化・ フィードバックを通じて効率的かつ顧客目線で利用しやすいサービス・活用方法を模索



- 汎用的なSaaSアプリケーションを利用しクラウド基盤で社内システム環境を構築することで、デジタル技術活用の環境を整えています。
- RPAやAIチャットボットなどのデジタル技術を活用し、社内業務を徹底して自動化（社内DX）し、フルオートメーションカンパニーを目指します。

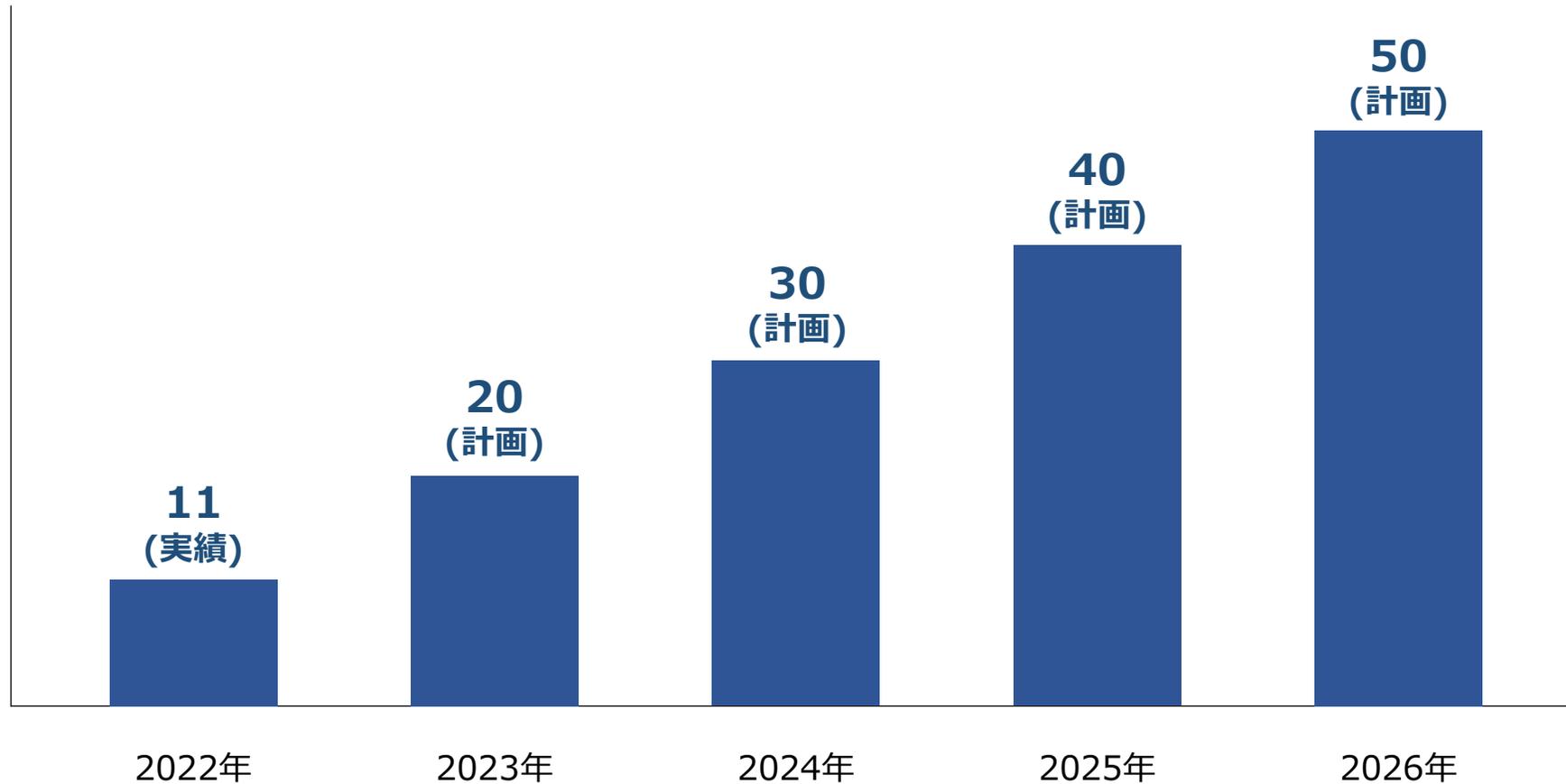
業務プロセスDX 構築基盤





- 業務プロセスのデジタル化完了数をKPIとして設定し、2026年までに累計50業務を目指します。

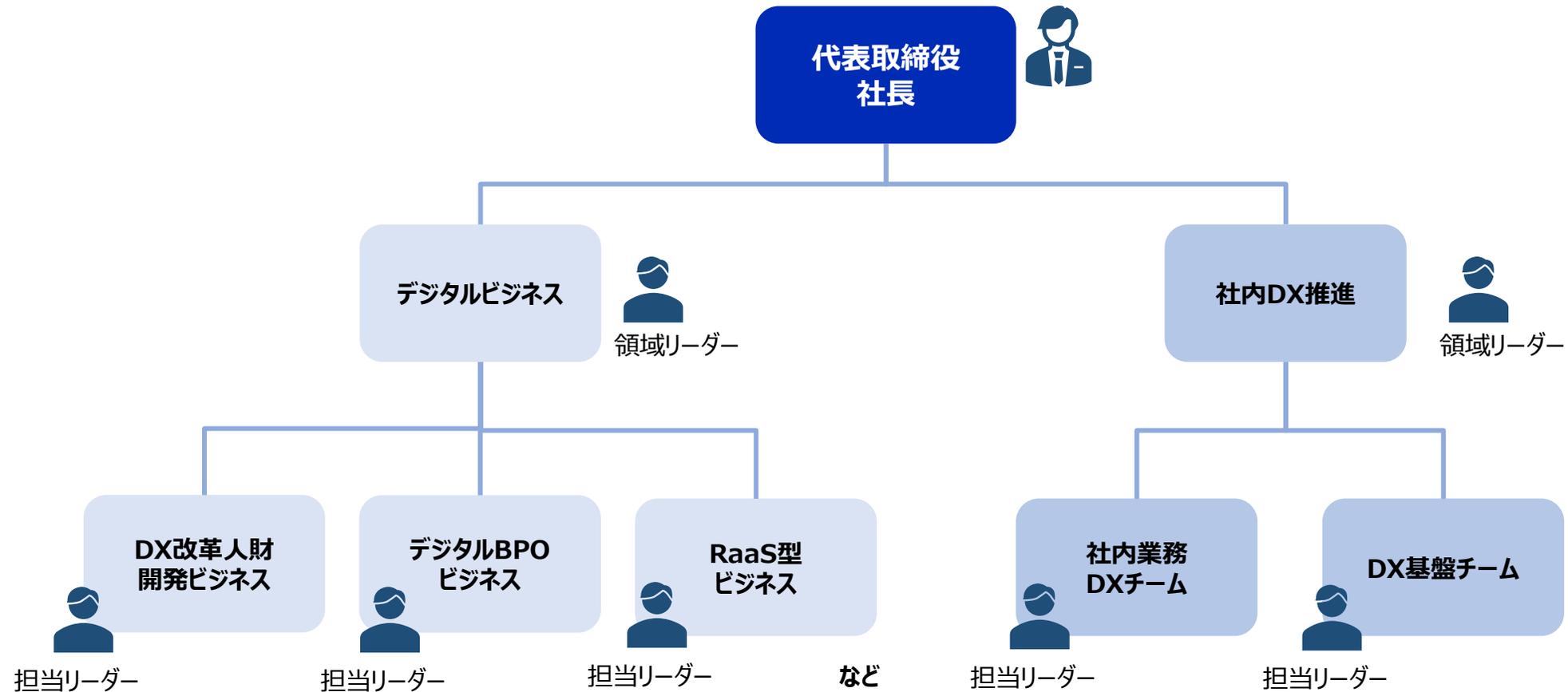
業務プロセスのデジタル化完了数





- 社長直下でチームごと管理職をリーダーに任命し、デジタルビジネスの創出と社内DXを推進します。

全社DX推進体制



※コンサルティング事業は案件ごとにプロジェクト体制を構築

Journey to Transformation



B&DX
Business & Digital Transformation